

ハッピー通信



2024年7月2日発行
24-27号

(<http://www.jremnant.com/>)

現場から（最近のニュースから）

ストレス



今年の大河ドラマ「光る君へ」は、紫式部の生涯を描いています。紫式部が書いた『源氏物語』の主人公は光源氏ですが、そのモデルとされたのは藤原道長で、“平安時代最高の権力者”とまで言われるほどの全盛期を築き上げた人です。その歴史の裏には、道長の被害者もいると、平安文学研究者・山本淳子氏の著書『平安人の心で「源氏物語」を読む』（朝日選書）から一部を紹介した記事がありました。

『源氏物語』の柏木（かしわぎ）は光源氏に「(意地の悪い) いけず」を言われたことがきっかけで病気となり、果ては亡くなっています。それは、精神的ストレスによって命を落としてしまったということだと言われています。その実例は、平安時代の実在の人物において確認できるそうです。『栄華物語』（巻八）では、高階明順（たかしなのあきのぶ）という人物が、藤原道長に叱責されて亡くなっているということです。また、長年のストレスにじわじわ追い詰められた結果と思えるのが、『大鏡』に書かれている藤原保忠（やすただ）の例があるということです。菅原道真是、陰謀によって無実の罪に陥れられ大宰府に流され、二年後に亡くなったのですが、その陰謀を企てた左大臣・藤原時平の長男が、藤原保忠です。陰謀を企てた人々が、次々と亡くなって行ったので、保忠は「次は自分」という恐怖におびえ続け、病気になり、恐ろしさのあまりに死んでしまったそうです。藤原兼家、藤原道長親子は、兼家の祖父の藤原忠平の時から菅原道真と関係が深く、忠平の子孫として道真の霊に護られる存在であったと言われているので、菅原道真のたたりの話は藤原道長につながるということです。また、一条天皇の場合、軽い病にかかり快方に向かっていたのに、病状に関して易占をした結果を道長が知らせてしまいました。その結果、病状は急変して、一カ月後には亡くなってしまったのです。

このように、道長はまわりにストレスを与えていたということです。「彼が栄華を獲得する道とは、こうした道でもあったのだ。ストレスよりも怖いのは、人にストレスを与える人間である。」と記事は結んでありました。（6月30日 AERA dot.<藤原道長のパワハラや追い込みで死亡？ ストレスで病に伏せた平安の天皇や貴族たち>より）

人間関係のストレスは、道長のまわりだけにかぎりません。平安時代からはじまったのでもなく、太古の昔からあったことでしょう。そして、いまでも続いています。また、ストレスを与える人が問題だと言われても、与えている人も何かからストレスを受けているでしょう。どんなに人が努力しても、善人であると認められ、聖人とまで言われても、すべての人がストレスを与える可能性があるのです。なぜでしょうか。人間とはどんな存在なのかを知るなら、その理由、そして、どうすれば良いかという道も見えて来ます。そのことについて、いっしょに見てみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあり、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になるし、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ



5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。

もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってください。感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください